

『さばきの中にこそ救い！』 エレミヤ書 24章 1～10節 2015.5.3(日)

『悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。…義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。』 マタイの福音書 3:4、6

神は、バビロンを用いて徹底的に神の民を裁かれた。その裁きは、神の民の不信仰、不従順、頑固さの故だった！しかし、その裁きの中に、神の最善の計画があった。それは、裁きを謙虚に受けとめ、敵に仕えて傲慢な心を砕かれ、自分たちの罪と愚かさを心から悔い改めて、素直で従順な民に作り変えることだった！そのことを神は次のように語った『見よ。わたしはあなたがたの前に、いのちの道と死の道を置く。この町にとどまる者は死ぬ…。出て、あなたがたを囲んでいるカルデヤ人にくだる者は、生きる(21:8～9)』と。しかしゼデキヤたちは、神に反抗して都に留まり、謙るところか傲慢にも戦いを挑み、預言通り悲惨な結末となる。しかし捕囚となったエホヤキンら約1万人はバビロンに完全降伏し、失意の中で心砕かれ、へりくだって敵に仕えて命を得た。

◆神は、自分の罪を素直に認め、正直に弱さ無力を自覚してへりくだる者を豊かに祝福される。

①謙りは、第一に神に対するもの！私たちがどれほど神の御心に従っていないかは明らかである。その不従順を認め、罪深く、無力な自分を神の御前に差し出すとき、主はその者を憐れまれる。

②第二に人の前に謙ること！心から人に謝るには、徹底して自分を低くする必要がある。「あ～ごめんごめん」という軽い謝罪、「どうせ私が悪かったわよ」という渋々謝罪、「ごめんって言ってるでしょ！」という逆切れ謝罪…などは、心からの謝罪ではない。プライドを捨てよう！③第三に、試練や困難の中で謙る。人は、困難の中でこそ真剣に祈り、不安や絶望の中でこそ、渴いて神の御心を確認し、その都度、その都度神に導かれる！これ以上に確かな生き方はない。

◆敗北し、倒され、街が消えていく…その中に神の御心がある。そこで人は本当の謙遜と従順を学び、悔い改めて神にのみ信頼するようになる。神は言われた『わたしは彼らにわたしが主であることを知る心を与える(エレミヤ 24:7)』と。主がどんな逆境の中にも共におられ、最悪と思える事態の中でさえ最善を行われることを知るとき、完全なアウェー(敵地)が、ホーム(御国)に変えられる。人生の巨大な試練を「乗り越えてやる！」ではなく、低く、謙虚、弱さも無力も認めて主により頼み、その下をぐり抜けさせていただく！